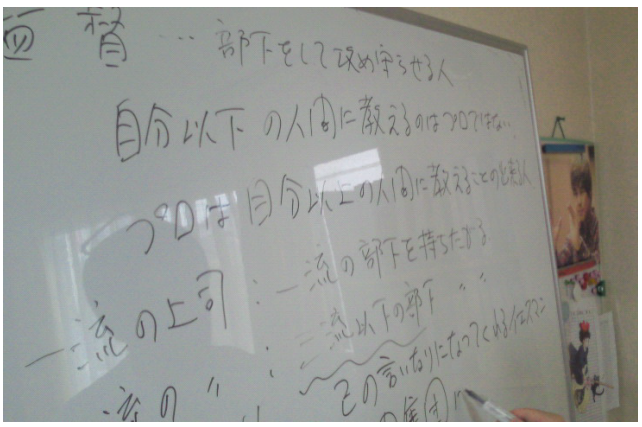
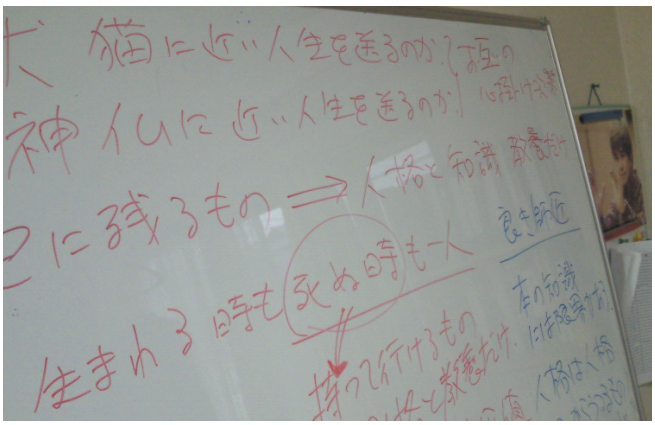
エモーション「社内学校」風景

始めた想いは「社員に、自分の人生で起こるであろう様々な問題事を、自分で考え、克服できる人間になってもらいたい。」という願いで、高い見識と教養を身に付けてほしいと思い、年間の時間を組んでいます。
この冊子には、ピックアップしたものを載せています。





会社設立（平成２年６月５日）２０年目の初日に、社員（パート社員１名含む）皆に説いたものです。

株式会社エモーション２０期目に当たり、エモーションで仕事をするという意味について

平成２１年６月１日

大前提

（きれい事でなく、本音で真剣に取り組んでいるんや！ほんまに。）

「会社は、全社員の充実した人生を実現する為に存在するものである。」

これは、平成５年から経営指針書の作成、実践に、全身全霊

（年中無休心を注いで）を傾けて、取り組んで来た社長として、

そして香川湧慈自身の生涯を懸けて実践している目的なのです。

真の「充実」とは、どういうことを意味するのか。

一人一人考えて、考え抜いてみてほしいのよ。ほんまに。

世間一般で言う「楽して、金を儲ける」ことでは決して無いと思うのだが、

皆はどう思うか？

本当は、一所懸命にやるのが一番、楽なのである。

理由は、１．一所懸命やる方が成功する確率が上がる。

（だから、楽しい）

２．一所懸命やる人は、周囲に感動を与え、信頼感も増す。

（だから、楽しい）

３．一所懸命やると失敗しても、後悔が残らない。

（だから、楽しい）

苦楽共有している状態（共有の～ing状態）が「充実」ではないだろうか。

お互いがお互いを思いやる心を持ち、それが行動に現れている状態。

「あなたは、あなたの精一杯をして下さい。

私は、私の精一杯をやり貫きます。」

この、あなたと私の間に共鳴する、響き合う理念が「和」なんや。

決して、仲良しのことを「和」と言うのでは無い。

己を貫き合うことを「和」と言うのよ。

「貫き合う」ということはどういうことか説明すると、

こういう事を言います。

全体の発展の為に、自分は何を以ってお役に立つのか。を自問自答する中で、

自覚に至った事を誠心誠意、一所懸命に、自分の特性（長所）を

発揮している状態を「和」と言うんだと自覚してください。

その為に、

まず、何の為に経営するのかという経営理念「志高く、らしく生きる」を

理解しようと努力してほしいのです。

また、それが人生に活かされるよう「健気な努力」をすることである。

と思う訳です。

（人間は「健気な努力」をしている人を美しいと感じるのです。

特に「女性は健気さ」が美しいと思っているんだが、皆はどう思いますか？）

そこで「会社に於ける志」の説明をします。

志とは、全体に照らし合わせて、その上で自分に何が出来るのかを、自らが、

選び取って行くもの。決して、周囲に迎合するものでなく、全体が発展する

為に、自らが何を以って役に立つのかを自覚して歩むことを言います。

志を社員一人一人が持っていなければ、快適な職場環境は成り得ないのです。

（これも、ほんまなんや！皆の協力が無ければ成り立たないんや。）

皆が煩悩（人間としての欲望）を断ち切らずに、自分は今、

何を為すべきかの「自覚」を持って「一つ」を歩むこと。

つまり、煩悩＝人間としての欲望は、捨てることなく、

自分のやるべき責任を自覚して「経営理念＝社長の理想」の下、

心を一つに合わせて社業に打ち込むことを言います。

この状態の時、一人一人の充実が生まれているのです。

人生を生きる心構えは「息を合わせる」こと。

一緒に働く仲間が感動するような仕事振り、立ち居振る舞いを、

自主的に率先することを期待します。

そのような歩みをする人は結果、自分の人生の運氣を自らが上げていることになるのです。

＊天は自ら助くる者を助く。

（自助努力している人に「のみ」天は助けてくれる。）

和やかな人間関係の中で、自主的に伸び伸びと働ける職場環境であり続ける。

のが、エモーションという会社の現状でありたい。

秩序とは、機能の差異の事を言います。

つまり「異なるから、事が成る。」のです。

（５本の指が各々違うように）これが秩序。　秩序は機能差の上に生ずるもの。

解りやすく言うと、身体の各部分が、各々異なった機能を持ち、
それが整然と秩序正しく動いていることによって、
人間が健康体であるように、経営者と社員それぞれが、
身に戴いたそれぞれの位に相応しい職務を遂行し、社業を全うする。
ここに、人としての道、秩序が保たれるのです。

自分が、今ここに、魂を注いでいるのか、否かが、真の善悪である。
（このことを、毎日自問自答する習慣を皆が持つ）

「会社は家族」という創業以来の思想がエモーションには存在する。
会社に於ける家族とは、血縁を言うのではなく、
信頼関係の絆の結び付いた人間関係を「家族」と言います。

だから、社員全員がお互いの信頼関係の絆を深める努力をしながら、各々の
業務に誠心誠意、取り組んでいる状態であった時「家族」であると言えます。
社長が父親、幹部が母親、他社員は全員姉妹だという考え。
父親の如き、厳しさと母親の如き、優しさを兼ね備えた経営者であり続けたい。
経営者と社員皆が、逞しさと優しさを身に付けた会社であり続けたい。
根底に「情」が流れ、その上に「責め心の無い厳しさと、狎（な）れ心
（なぁなぁの心）の無い優しさ」が溢れている会社でありたい。

社員を守るのは、政府でもなく、親でもなく、会社や。

「会社が社員を守る。」だから、

守るに値する社員であって欲しい。守るに値するとは、理念に共感し、

苦楽共有している姿であること。

そのような雰囲気の職場、つまり「社風」を皆の総合力で築き上げることが、

大切です。「社風は、最大の教育者」です。

苦労を苦労と感じさせない社風を作る努力。苦楽を共有し、共に前進、また

前進の前向きの姿勢で生き甲斐ある人生を求めて、歩み続けようとする社風。

このムード作りが大切。

本来苦労というものは、もっと快適になる為にするものである。

お互いが思いやりに溢れた社風。

一所懸命働いている人がバカをみない、報われる社風。

（一人の怠惰な言動が、本人は気付かなくとも、周囲の一所懸命やっている

人達のやる氣を削いでしまうのです。）

人が見ていようが、見ていまいが、会社（全社員）が良くなる事に、

自主的に取り組む人を皆が讃える社風。

皆が自主的に生き生きと働いている社風。

周囲から見て、微笑ましいと感じてもらえる社風。

社風は一夜にして成らず、月日を重ねて皆の努力の結果、成るものです。

「当たり前は、もの凄い努力の結果得るもの」だと自覚してください。

社風を築いて行くのに時間は掛かるが、壊すのは簡単なのである。

雰囲気は、社員皆の協力によって出来るもの。

一人の不心得者を生じた時に、そのムードはいとも簡単に壊れてしまう。

故に、一人一人に理念の自覚が無ければ、和への道は開かないのです。

その社風を築く第一の率先者が社長なのです。

家族の父として、皆の「真の充実」の為に、全身全霊を懸けて歩むのが、

社長なのです。

だから、信頼関係の絆、社風を乱す者は、一所懸命やってる人のために、

勘当せねばならんのです。

泣いて馬謖（ばしょく）を斬らねばなりません。

本来「罪」とは、人の躍動を包むことを言います。

本来「汚れ」とは、人のやる氣を削ぐことを言います。

けじめとは、氣を締めることを言います。

お互いに罪、汚れが無いよう常に心に留意して、毎日けじめある言動を心掛けて

歩んで行きましょう。

悪気があってする罪な言動と、悪気が無い罪な言動は、悪気が無い罪な言動の

方が罪が深い、ということを自覚してください。

何故なら、自分に反省心が無いからです。知らずに犯す罪が傷が深いのです。

世間一般の会社の多くは、おそらく、仲の良い者同士が、寄り集まって、コソ

コソしたり、愚痴、悪口、文句、噂話を影で言っています。

そんな職場に躍動、愉しさは生じません。

罪、汚れを率先して作っているようなものです。

言わなくていいから、言わないことは、人生に影響は無いが、言えないから、

言ってないことは、人生に影響が出るのだという事も自覚してください。

我々は、上記のような、いわゆる「その他大勢」の会社ではありません。

我々は、誇り高く、志高く、人間らしく、躍動している一人一人であります。

エモーションの経営目的を実践すべく、

皆が一致団結して社業に取り組んでいる集団です。

一般的に言う「幸せ」でなく、

日本人本来の「仕合わせ」を実践している会社であります。

「仕」＝「為す」ことの意味。つまりお互いが為すことをして行く、そして、

お互いが合わせている事（為すことを合わせる）を以って仕合わせと言います。

会社に於けるお金は「血液」です。コミュニケーションは「息」です。

血液は輸血できるが、息は５分止まると、死に至る。

だから、会社に於いて、お金よりコミュニケーションが大事と考えます。

当然「節度あるコミュニケーション」。

業務中は、全てに行き届くよう神経と心を配って（まるで、赤ちゃんが側に

居るように）、昼休みには息抜きのコミュニケーションを。

そして、業務終了時には、心地良い疲れを感じるくらいが丁度良いのです。

うちは、所帯が小さいから、気づいた事はスグ、社長に直接言う勇氣を持って

下さい。

そのような習慣を持って下さい。

過去の積み重なった姿が現在の自分だという事実には変わりはありませんが、

生涯を懸けて成りたい理想の自分が、実は「本来の自分」であるのです。

その理想の自分、つまり志が、今の自分を助けてくれるのです。

困難に直面した時、迷いが生じた時、頼るべきは自分自身である。

頼り甲斐のある自分に成る為に、志が必要なのです。

最後に、真の会社とは、縁あって集いし社員達の子供のことまで考えて、

その子供達が人の道を自立して歩めるよう実践が為されていることを言います。

その為に、

社員一人一人を指導者として育成している社風を築き上げたい。

エモーションの社員は、自分の言動で、縁ある人達に勇氣と感動を

与えられる人間性を持ち合わせてほしい。少なくとも、自分の子供達や、

後輩から、真面目に「人間は、何の為に生きるの？」と訊ねられたとしたら、

相手が納得行き、勇氣を与えられる自分なりの考え、

哲学を確りと持っている人間であってほしいと思います。

そのような人間にお互いが成れるよう社業を通して、精進したいものです。